Microsoft® Windows® 2000/XP/Server 2003

UPS サービス ドライバ

Ver３.３

取扱説明書

- 本書は、「Windows 2000/XP/Server 2003 UPSサービス ドライバ」（以下　本ソフトウェア）のインストール手順・ご使用方法・ご使用上の注意事項などを記載していますので、ご使用する前に、必ずお読みください。
- 無停電電源装置（UPS）本体の取扱説明書をお読みいただき、その上で、本ソフトウェアをご使用ください。
- UPSサービスドライバ　Ver2.0からUPSサービスドライバ　Ver3.3へアップグレードすることはできません。必ず、UPSサービスドライバVer2.0をアンインストールしてから、UPSサービスドライバ　Ver3.3をインストールしてください。UPSサービスドライバ　Ver3.0シリーズからUPSサービスドライバ　Ver3.3へアップグレードする場合は、「３．インストール方法」（P.4）に従ってインストールを行ってください。
- 「Windows 2000/XP/Server 2003 UPSサービス」（以下 UPSサービス）と自動シャットダウンソフト「PA」または「PowerAct Pro」は、併用できません。
- マイクロソフト社により、OS標準の自動シャットダウンソフトウェア「UPSサービス」の仕様が変更された場合、本ソフトウェアの動作保証はできない場合があります。現在、本ソフトウェアが対応しているOS標準の自動シャットダウンソフトウェア「UPSサービス」のバージョンは、「Version 1.0」です。
-
-
-

目次

ご使用用途について

一般オフィスや家庭で使われるパソコン（DOS/V機やPC98-NX）に使用することを目的に設計、製造されています。きわめて高い信頼性や安全性が要求される
次のような用途には絶対に使用しないでください。
1.人命に直接関わる医療機器などの用途。
2.人身の損傷に至る可能性のある用途。
（航空機、船舶、電車、エレベータ等の運行、運転、制御に直接関連する用途）。
3.主要な電算機システム、幹線通信機器、公共の交通システム等。
4.これらに準ずる機器。

ソフトウェア使用許諾契約書について

本ソフトウェアをパソコンへインストールされた場合は、次のソフトウェア使用許諾書（以下本契約）内容にご同意いただけたものといたします。ご同意いただけない場合には、本ソフトウェアをパソコンにインストールしないでください。

【ソフトウェア使用許諾契約書】

オムロン株式会社（以下 オムロン）がお客様にソフトウェア商品（以下 本ソフトウェア）を使用許諾する条件を定めたものです。
必ず本ソフトウェアをご使用になる前に、以下の事項に注意してお読みください。

1. 本契約にいう「本ソフトウェア」とは、本パッケージに含まれるコンピュータ・プログラムおよびそれに関連する技術資料などのすべてを含みます。本ソフトウェアにかかわる著作権その他の知的財産権はオムロンまたはオムロンに使用許諾をしている第三者に帰属し、本契約によりお客様に移転することはありません。お客様がそれらの権利を侵害した場合、前述のオムロンまたはオムロンに使用許諾をしている第三者に対する責任は、お客様が負うものとします。
2. オムロンは、お客様が無停電電源装置（UPS）を管理する目的のみで本ソフトウェアを使用する非独占権利を承諾します。
3. お客様は本ソフトウェアのバックアップ目的のためのみに本ソフトウェアを複製することができます。お客様は本ソフトウェアの改変ならびに逆コンパイル、逆アセンブリ、およびリバースエンジニアリングその他のそれに類する行為を行うことはできません。
4. お客様は、本ソフトウェアの内容について本契約期間中およびその終了後も機密として保存し、第三者へ開示しないものとします。
5. ソフトウェアに物理的な欠陥（CD-ROMやフロッピディスクの破損など）があった場合には、お客様が商品を購入した日から90日に限り、無償で交換します。
6. お客様が商品を購入後90日以内に本ソフトウェアの欠陥を発見し返却した場合、オムロンは無償で交換いたします。
7. 上記の本ソフトウェアの交換は、オムロンのソフトウェア保証責任のすべてを定めるものであり、オムロンは本ソフトウェアの欠陥により発生した、お客様の直接的、間接的あるいは波及効果よる損害に対しては一切の責任を負いません。

８．　本ソフトウェアの改変ならびに逆コンパイル、逆アセンブリ、およびリバースエンジニアリングその他のそれに類する行為により、特許権（実用新案権に基づく権利も含む。以下同じ）または著作権を侵害するものとしてオムロンに使用を許諾している第三者および当該第三者以外からお客様が請求された場合には、オムロンは責任を負いません。

９．　オムロンがお客様の損害について責任を負ういかなる場合においても、オムロンの責任はお客様が商品購入代金として支払った金額を超えることはありません。

１０．　お客様が本契約に違反した場合、オムロンはお客様に通知することにより本ソフトウェアの使用許諾を終了させることができます。その場合お客様は本ソフトウェアおよびそのすべての複製物をオムロンに返却しなければなりません。

運用に関するお願い

1. 本ソフトウェアおよび本書の内容の全部または一部を無断で流用することは固くお断りいたします。
2. 本ソフトウェアおよび本書の内容については将来、予告なしに変更する場合があります。
3. 本ソフトウェアおよび本書の内容については万全を期しておりますが、万一誤りやお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡くださるようお願いいたします。
4. 本書に記載した画面などは、実際のものとは一部異なる場合があります。

はじめに

このたびは、「Windows 2000/XP/Server 2003 UPSサービス ドライバ ソフトウェア」をご使用していただき、誠にありがとうございます。

無停電電源装置（UPS）は、停電などの電源異常の障害からシステム自身を保護するものとして使用されています。無停電電源装置（UPS）は、バッテリにより限られた時間だけ、システムを保護することができます。停電などの電源異常発生時には、この限られた時間内にシステムを正常に終了させる必要があります。システム終了処理をおこたると、OS やハードディスクの損傷につながります。UPSサービスを使用することにより、システムを安全に自動的に終了させることができるようになります。

《参考情報》
● 入力電源回復後パソコンを自動的に起動させるシステムを検討されている場合は、以下のような条件を満たすパソコンを選定してください。入力電源を供給された時のパソコンの動作については、パソコンの取扱説明書をご覧いただくか、パソコンメーカのサポートセンタまでお問い合わせください。 【条件】 入力電源が供給されるとパソコンの電源スイッチを押さなくてもパソコンが起動できること。

１．動作環境

この章では、本ソフトウェアの動作環境について説明します。

動作パソコン	DOS/V機、およびNEC製PC98-NXシリーズ機 （NEC製PC9801,9821シリーズではご使用になれません。） （Apple製Macintoshおよびその互換機ではご使用になれません。）	
動作OS	Microsoft® Windows® 2000/XP/Server 2003	
必要メモリ	64MB以上 （128MB以上推奨）	
HDD空き容量	2MB以上	
インタフェース	RS-232C	
通信方式と無停電電源装置（UPS）の形式（※1）	シリアル通信方式（※2）	BZ35T/BZ50T/BZ50LT （※3） BN150XR/BN240XR BN75XS/BN100XS/BN140XS BU70XS/BU100XS, BU70XR/BU100XR2/BU200XR2 BX35XFV/BX50XFV BX35XFS/BX50XFS など
	接点信号方式（※2） （電源出力停止遅延機能あり）	BX25XT/BX75XS2 など
	接点信号方式（※2） （電源出力停止遅延機能なし）	BX75XS/BX50LS/BX50LF BX35LF/BX750/BX500Ⅱ/BX510 BX500/BX352/BX351 など

（※1） 自動シャットダウンソフト「PA」または「PowerAct Pro」対応の無停電電源装置（UPS）をご使用の場合は、「シリアル通信方式」を選択してください。接点信号方式の無停電電源装置（UPS）で電源出力遅延機能がある機種をご使用の場合は、「接点信号（電源出力停止遅延機能あり）」を選択してください。接点信号方式の無停電電源装置（UPS）で電源出力遅延機能がない機種をご使用の場合は、「接点信号（電源出力停止遅延機能なし）」を選択してください。

（※2） 無停電電源装置（UPS）またはオプション品に同梱されている付属ケーブルをご使用ください。

（※3） BZシリーズの無停電電源装置（UPS）を使用する場合、オムロン無電電電源装置（UPS）専用仮想COMドライバソフトが別途必要です。

用語説明	
シリアル通信方式	オムロンプロトコルのコマンドを使用して無停電電源装置（UPS）と通信を行います。コマンドから無停電電源装置（UPS）の電源状態やバッテリ容量などの情報入手や無停電電源装置（UPS）の停止などができます。
接点信号方式	パソコンのシリアルポートを使用してDC電圧（ON/OFF）で通信を行います。DC電圧を使用することにより、無停電電源装置（UPS）の電源状態の情報入手や無停電電源装置（UPS）の停止などができます。
電源出力停止遅延機能	無停電電源装置（UPS）がDC電圧のバックアップ電源停止（BS）信号を受信したとき、無停電電源装置（UPS）内のタイマで設定されている時間を経過してから無停電電源装置（UPS）の電源出力を停止する機能です。

２．無停電電源装置（UPS）との接続方法

この章では、BX25XTを事例にしてパソコンと無停電電源装置（UPS）を付属ケーブルで接続する手順について説明します。
以下の手順に従ってパソコンと無停電電源装置（UPS）を接続してください。

［付属ケーブルを接続する前に］

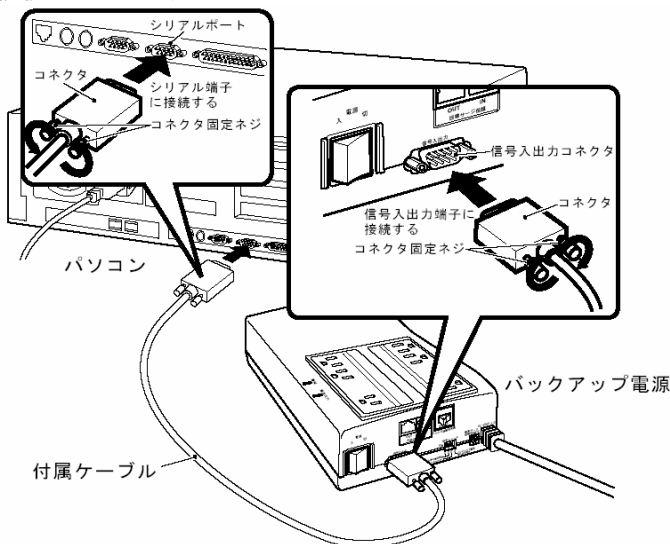
（１） パソコンと無停電電源装置（UPS）のAC入力プラグの接続方法は、各無停電電源装置（UPS）の取扱説明書をご参照ください。
（２） パソコンと無停電電源装置（UPS）の「電源スイッチ」が切れていることをご確認ください。

［パソコンと無停電電源装置（UPS）の「電源スイッチ」が入っている場合］

OSを終了しパソコンの「電源スイッチ」を切ってください。その後に、無停電電源装置（UPS）の「電源スイッチ」を切ってください。

［付属ケーブルを接続する］

パソコンと無停電電源装置（UPS）の通信のために、付属ケーブルを使用してパソコンと無停電電源装置（UPS）を必ず以下の接続図のように接続してください。付属ケーブルのコネクタ固定用ネジを締めて、コネクタを必ず固定してください。

［備考］　無停電電源装置（UPS）またはオプション品に同梱されている付属ケーブルを接続してください。

［接続図（BX25XTの例）］

［電源スイッチを入れる］

（1）　無停電電源装置（UPS）の「電源スイッチ」を入れてください。

（2）　パソコンの「電源スイッチ」を入れてください。

［ケーブルを接続する場合の注意］
● 無停電電源装置（UPS）のコネクタとパソコンのシリアルポートを接続するケーブルは、無停電電源装置（UPS）やオプション品に同梱されている付属ケーブルをご使用ください。
● 付属ケーブルは、オムロン製 無停電電源装置（UPS）およびオムロン製 OEM供給品の無停電電源装置（UPS）専用です。通信機器や他社無停電電源装置（UPS）に使用しないでください。
● パソコンのシリアルポート（COM1～COM4）のいずれか１つ占有します。
● シリアル拡張ボードでのご使用はできません。
● シリアルポートが2つあるパソコンで、シリアル２（シリアルB）側をお使いいただく場合、パソコンのシリアル２（シリアルB）に関するBIOS設定が「Disable」となっている機種があります。シリアル２（シリアルB）をご使用する場合は、この設定を「Enable」へ変更してご使用ください。パソコンのBIOS設定の確認および設定変更方法については、ご使用されているパソコンによって異なります。ご使用されているパソコンの取扱説明書をご確認いただくか、またはサポートセンタへお問い合わせください。
● ご使用になるパソコンによっては、パソコンのシリアルポートに関するBIOS設定が「Auto」または「OS Control」となっている機種があります。この設定の場合、停電などの電源異常によるシャットダウン動作時に無停電電源装置（UPS）が「バックアップ電源停止信号」による自動停止ができない場合があります。この場合、パソコンのシリアルポートに関するBIOS設定を、「Auto」または「OS Control」から「COM1」～「COM4」の設定に変更してください。なお、ご使用されるパソコンによっては、I/OアドレスとIRQで表示される機種もあります。パソコンのBIOS設定の確認および設定変更方法については、ご使用されているパソコンによって異なります。ご使用されているパソコンの取扱説明書またはサポートセンタへお問い合わせください。

３．インストール方法

この章では、本ソフトウェアのインストール方法について説明します。

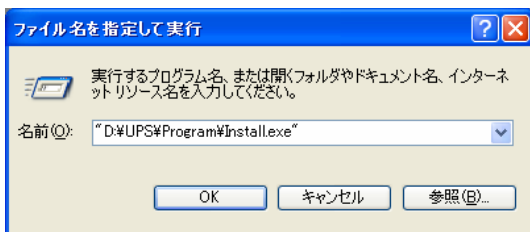
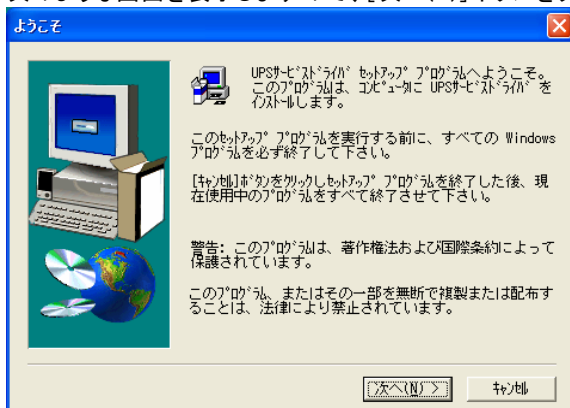
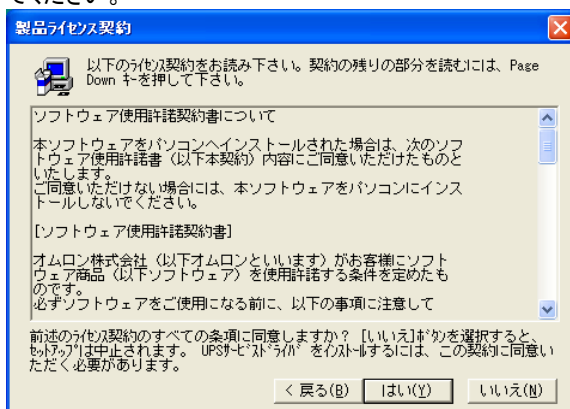
［インストール時の注意］
● 本ソフトウェアをインストールする時に、「ドライバファイル」のインストールを要求された場合は、「8.1 ドライバソフトのインストールする」（P.25）に従って、ドライバファイルのインストールを行ってください。ドライバファイルをインストールした後、本ソフトウェアのインストールを行ってください。

３．１　ソフトウェアをインストールする

インストール方法は、Windows 2000/XP/Server 2003のいずれのOSをお使いの場合でも同じです。本書では、WindowsXPの画面を例にご説明いたします。本ソフトウェアが不要になったときは、「7．アンインストール方法」（P.24）に従って、操作してください。

インストールする前の注意事項
● **[UPSサービスドライバ Ver2.0]をすでにインストールされている場合、[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加／削除]または[プログラムの変更／削除]を起動し、必ず[オムロンバックアップ電源環境設定]のアンインストールを行ってください。**
● **UPSサービスと他の自動シャットダウンソフト(PAなど)は、併用できません。**他の自動シャットダウンソフト(PAなど)をすでにインストールしている場合は、他の自動シャットダウンソフト(PAなど)をアンインストールしてください。アンインストール後、必ずOSの再起動を行ってください。OSを再起動した後に、本ソフトウェアをインストールし、UPSサービスの設定を行ってください。なお、UPSサービスに関する設定などについては、Windowsのオンラインヘルプまたは取扱説明書をご参照ください。

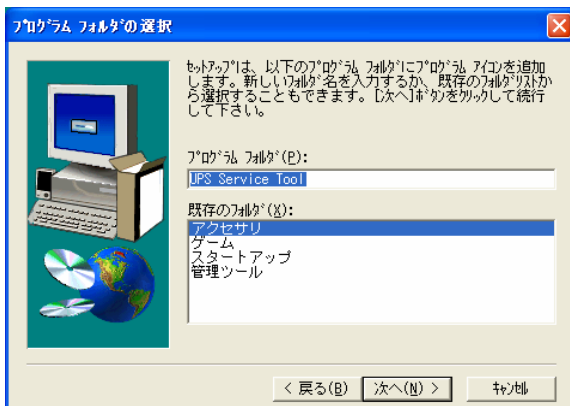
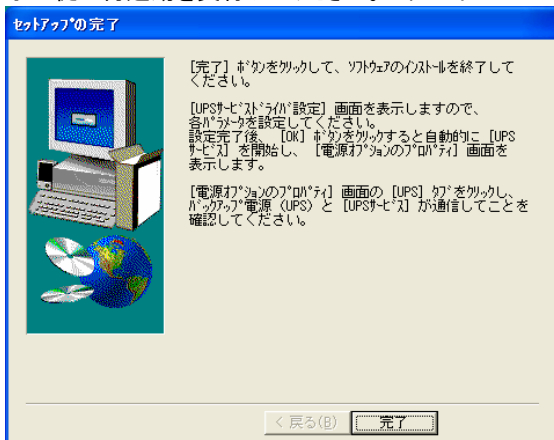
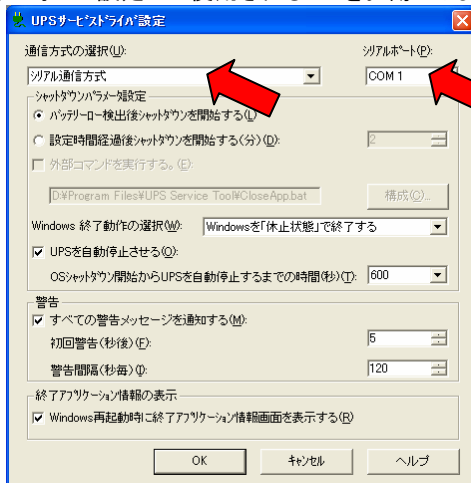
① アドミニストレータ(コンピュータの管理者)権限のユーザ名を使用してWindowsへログインしてください。

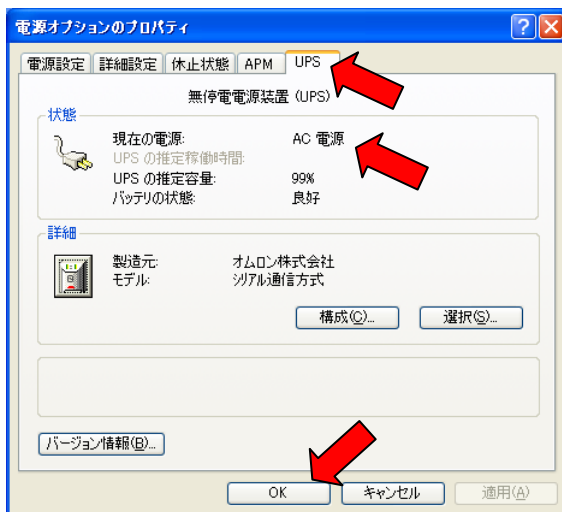
② Windowsの[スタート]ボタンをクリックして、[ﾌｧｲﾙ名を指定して実行]を選択してください。[名前(O)]の欄にD:¥UPS¥Program¥Install.exeと入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。
（例 CD-ROMドライブがDドライブの場合D:¥UPS¥Program¥Install.exeと入力します。）

③　次のような画面を表示しますので、[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。

④　製品ライセンス契約画面が表示されますので、製品ライセンス内容をご確認ください。同意いただけるときは[はい(Y)]を、同意いただけないときは[いいえ(N)]をクリックしてください。同意いただけないときは、本ソフトウェアをご使用になることはできません。[いいえ(N)]ボタンをクリックし、インストールを中止してください。

⑤　インストール先のフォルダ名を確認し、[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。

- 自動的に表示されるインストール先フォルダは、C:¥Program Files¥UPS Service Toolです。
- インストール先フォルダは、特に変更する必要はありません。変更したい場合は、[参照(B)]ボタンをクリックし、フォルダ名を変更してください。

インストール先フォルダの注意
ネットワークドライブとして割当てたハードディスクに、本ソフトウェアをインストールすることはできません。

⑥　プログラムフォルダ名を確認し、[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。本ソフトウェアに必要なプログラムファイルを自動的にインストールします。

- 自動的に表示されるプログラムフォルダは、UPS Service Toolです。
- プログラムフォルダは、特に変更する必要はありません。

⑦ 本ソフトウェアのインストールが完了すると次のような画面を表示されますので[完了]ボタンをクリックしてください。[完了]ボタンをクリックするとWindowsのデスクトップ画面に戻ります。なお、OSの再起動を求められた場合は、画面の指示に従い再起動を実行してください。これでインストールが完了しました。

⑧ インストール完了後、自動的に[UPSサービスドライバ設定]画面を表示します。[通信方式の選択(U)]と[シリアルポート(P)]を設定してください。各パラメータについては、「1. 動作環境」(P.1)および「4. UPSサービスドライバ設定」(P.9～P.17)をご参照ください。設定完了後[OK]ボタンをクリックしてください。なお、各パラメータの設定を間違えると[通信エラー]になったり、OSが「シャットダウン」したりしますので、ご注意ください。《備考》パラメータは、後で設定することもできます。「通信方式を選択する」、「シリアルポートを選択する」以外のパラメータは、デフォルト設定でご使用されることをお勧めします。

⑨　自動的に[電源オプションのプロパティ]画面が表示されます。[UPS]タブを選択し、[状態]欄の[現在の電源]の項目が[AC電源]になっていることを確認してください。[AC電源]と表示されている場合、無停電電源装置（UPS）と「UPSサービス」が正常に通信しています。[OK]ボタンをクリックして[電源オプションのプロパティ]画面を終了してください。

なお、[UPS]タブの各表示内容については、Windowsのオンラインヘルプなどをご参照ください。

【[シリアル通信方式]を選択している場合の画面例】

⑩　以上でインストールおよび[UPSサービスドライバ]の基本設定が完了しました。

【[UPSサービスドライバ設定]の各設定の調整が必要ない場合】

「5. シャットダウン動作順序」(P.18)へ進んでください。

【[UPSサービスドライバ設定]の各設定を調整したい場合】

以下の手順にしたがって[UPSサービスドライバ設定]画面を開き、「4. UPSサービスドライバ設定」(P.9～P.17)をご参照し、各パラメータを調整してください。設定完了後[OK]ボタンをクリックしてください。自動的に[電源オプションのプロパティ]画面を表示します。

起動手順
● [スタート]－[すべてのプログラム(P)]－[UPS Service Tool]－[UPSサービスドライバ設定]を選択してから、マウスの左ボタンをクリックしてください。[UPSサービスドライバ設定]画面を表示します。 **（備考：Windows2000では、[プログラム(P)]と表示されます。）**
● **[UPSサービスドライバ設定]画面を起動する前に、[電源オプションのプロパティ]画面を必ず閉じてください。**

４．UPSサービスドライバ設定

この章では、本ソフトウェアの［UPSサービスドライバ設定］についてご説明いたします。

- 主に、クライアントパソコンやスタンドアローパソコンとしてご使用のお客様は、デフォルト設定値でご使用されることをお勧めします。
- 主に、サーバやシステム用途でご使用のお客様は、ご使用されるシステムに適したパラメータを設定してください。

４．１　通信方式を選択する

<table>
<tr><th>デフォルト設定</th><th colspan="2">説明</th></tr>
<tr><td rowspan="5">シリアル通信方式</td><td colspan="2">「UPSサービス」とパソコンに接続している無停電電源装置（UPS）が通信するための方式を選択します。</td></tr>
<tr><th>パラメータ</th><th>パラメータの説明</th></tr>
<tr><td>シリアル通信方式</td><td>シリアル通信機能を搭載している無停電電源装置（UPS）をご使用の場合に選択してください。</td></tr>
<tr><td>接点信号方式
（電源出力停止遅延機能あり）</td><td>無停電電源装置（UPS）本体に「電源出力停止遅延時間」の設定スイッチ（DIPスイッチ）を搭載している無停電電源装置（UPS）をご使用の場合に選択してください。</td></tr>
<tr><td>接点信号方式
（電源出力停止遅延機能なし）</td><td>無停電電源装置（UPS）本体に「電源出力停止遅延時間」の設定スイッチ（DIPスイッチ）を搭載していない無停電電源装置（UPS）をご使用の場合に選択してください。</td></tr>
</table>

「通信方式の選択」について
ご使用されている無停電電源装置（UPS）の通信方式がご不明な方は、本書の「１．動作環境」（P.1）の「通信方式と無停電電源装置（UPS）の形式」をご参照ください。

４．２　シリアルポートを選択する

<table>
<tr><th>デフォルト設定</th><th colspan="2">説明</th></tr>
<tr><td rowspan="6">COM 1</td><td colspan="2">「UPSサービス」とパソコンに接続しているUPSが通信するための、パソコンのシリアルポートを選択します。</td></tr>
<tr><th>パラメータ</th><th>パラメータの説明</th></tr>
<tr><td>COM1</td><td>OSがCOM1と認識しているポートです。</td></tr>
<tr><td>COM2</td><td>OSがCOM2と認識しているポートです。</td></tr>
<tr><td>COM3</td><td>OSがCOM3と認識しているポートです。</td></tr>
<tr><td>COM4</td><td>OSがCOM4と認識しているポートです。</td></tr>
</table>

４．３　各シャットダウンパラメータを設定する

（1）バッテリロー検出後シャットダウンを開始する

<table>
<tr><th>デフォルト設定</th><th colspan="2">説明</th></tr>
<tr><td rowspan="4">◉</td><td colspan="2">停電などの電源異常が発生してからOSのシャットダウン動作を開始する条件を選択することができます。</td></tr>
<tr><th>パラメータ</th><th>パラメータの説明</th></tr>
<tr><td>◉</td><td>無停電電源装置（UPS）の状態が「バッテリロー」になったことを検出してから、「UPSサービス」がOSのシャットダウンを開始します。</td></tr>
<tr><td>○</td><td>「設定時間経過後シャットダウンを開始する」機能に従います。</td></tr>
</table>

（2）設定時間経過後シャットダウンを開始する

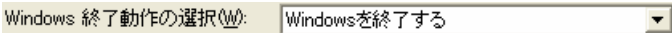
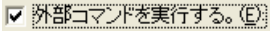
<table>
<tr><th>デフォルト設定</th><th colspan="2">説明</th></tr>
<tr><td rowspan="4">○</td><td colspan="2">停電などの電源異常が発生してからOSのシャットダウン動作を開始する条件を選択することができます。</td></tr>
<tr><th>パラメータ</th><th>パラメータの説明</th></tr>
<tr><td>◉</td><td>「設定時間経過後シャットダウンを開始する」で設定した時間経過後に、OSのシャットダウンを開始します。設定時間内に無停電電源装置（UPS）の状態が「バッテリロー」になった場合は、設定時間内でもOSのシャットダウンを開始します。設定時間については、【設定時間パラメータ】をご覧ください。</td></tr>
<tr><td>○</td><td>「バッテリロー検出後シャットダウンを開始する」機能に従います。</td></tr>
</table>

【設定時間パラメータ】

<table>
<tr><th>デフォルト設定</th><th colspan="2">説明</th></tr>
<tr><td rowspan="3">2（分）</td><td colspan="2">「UPSサービス」が停電などの電源異常を検出してからシャットダウン開始までの待機時間を設定できます。</td></tr>
<tr><th>パラメータ</th><th>パラメータの説明</th></tr>
<tr><td>0～720分</td><td>1分単位で待機時間を設定できます。</td></tr>
</table>

（3）外部コマンドを実行する

<table>
<tr><th>デフォルト設定</th><th colspan="3">説明</th></tr>
<tr><td rowspan="8"></td><td colspan="3">シャットダウン動作時に外部コマンドを実行できます。</td></tr>
<tr><th colspan="2">パラメータ</th><th>パラメータの説明</th></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3"></td><td>OSのシャットダウン動作を開始した時に、設定されている外部コマンドを30秒間実行できます。</td></tr>
<tr><th>《注意》</th></tr>
<tr><td>[Windows終了動作の選択]で「Windowsを「休止状態」で終了する」を選択している場合、外部コマンドは、実行されません。</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td>C:¥ProgramFiles¥
UPS Service Tool
¥CloseApp.bat</td><td>「UPSサービス」がOSのシャットダウン動作を開始した時に、編集中のファイルを自動保存する外部コマンドです。</td></tr>
<tr><td>構成</td><td>OS標準の「UPSシステムシャットダウンプログラム」画面を起動できます。「UPSシステムシャットダウンプログラム」画面から、外部コマンドを設定することができます。<u>「UPSシステムシャットダウンプログラム」の使用方法については、Windows 2000/XP/Server 2003の取扱説明書、オンラインヘルプなどをご参照ください。</u></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>OSのシャットダウン動作を開始しても外部コマンドは実行されません。</td></tr>
</table>

【外部コマンド設定手順について】

注意
● [Windows終了動作の選択]で「Windowsを「休止状態」で終了する」を選択している場合、外部実行コマンドは実行されません。 ● 外部コマンドを設定する場合は、[構成]ボタンをクリックし、「UPSシステムシャットダウンプログラム」画面から外部コマンドを設定してください。なお、設定完了時には、[パスワードの設定]ボタンをクリックし、Windowsへログインした時のパスワードを必ず入力してください。パスワードを入力しなかった場合は、外部コマンドは実行されません。 ● 外部コマンドは、「UPSシステムシャットダウンプログラム」画面の「実行するアカウント名」の方のみ使用できます。「実行するアカウント名」以外の方は、外部コマンドを使用することはできません。これは、OS標準ソフトウェア「UPSシステムシャットダウンプログラム」の仕様です。 ● Windowsへログインするパスワードを設定されていない場合は、[コントロールパネル]－[ユーザアカウント]を開き、パスワードを設定してください。パスワードの設定方法については、Windowsのオンラインヘルプなどをご参照ください。 **《パスワード設定の注意》** 次回のWindowsログインよりパスワードが要求されますので、パスワードを忘れないように、記録してください。

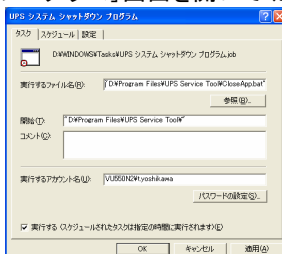
《設定例》

① [UPSサービスドライバ設定]画面の[Windows終了動作の選択]の設定パラメータが[Windowsを終了する]になっていることを確認してください。[Windowsを「休止状態」で終了する]に設定されている場合は、[外部コマンド]機能は動作しません。

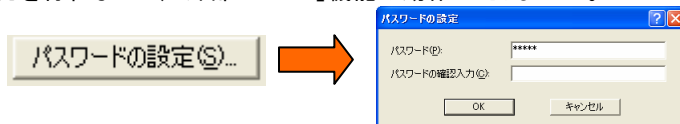
Windows 終了動作の選択(W): Windowsを終了する

② [UPSサービスドライバ設定]画面の[外部コマンドを実行する]の設定に「レ」(チェックマーク)がついていることを確認してください。

☑ 外部コマンドを実行する。(E)

③ [UPSサービスドライバ設定]画面の[構成(C)]ボタンをクリックし、[UPSシステムシャットダウンプログラム]画面を開いてください。

④　[参照]ボタンをクリックし、外部コマンドとして実行したいファイル名を選択してください。選択が完了すると[実行するファイル名]の欄にフォルダ名とファイル名が記述されます。

参考
●　本ソフトウェアをインストールした場合、自動ファイルセーブ機能が実行されるように設定されます。 【設定例】 実行するファイル名(R): "D:¥Program Files¥UPS Service Tool¥CloseApp.bat" ●　自動ファイルセーブを実行するためのコマンドは、本ソフトウェアをインストールしたフォルダ(ProgramFiles¥UPS ServiceTool)にファイル名(CloseApp.bat)で収録されます。

⑤　次に、[パスワードの設定]ボタンをクリックして、Windowsへログインしたときのパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。このパスワード入力を行わないと、「外部コマンド」機能は動作いたしません。

⑥　[UPSシステムシャットダウンプログラム]画面に戻りますので、[OK]ボタンをクリックして[UPSサービスドライバ設定]画面に戻ってください。

⑦　以上で、外部コマンドの設定は完了です。

(4) Windows終了動作の選択

<table>
<tr><th>デフォルト設定</th><th colspan="2">説明</th></tr>
<tr><td rowspan="4">Windowsを「休止状態」で終了する</td><td colspan="2">OSのシャットダウン動作(シャットダウン／休止状態)を選択できます。
●　「Windowsを終了する」を選択した場合は、外部コマンド(ファイルセーブ)実行してからOSを終了します。
●　「Windowsを「休止状態」で終了する」を選択した場合は、現在の作業状態をそのままハードディスクに保存します。次回OSを起動時は、前回の作業状態を復元できます。</td></tr>
<tr><th>パラメータ</th><th>パラメータの説明</th></tr>
<tr><td>Windowsを終了する</td><td>「UPSサービス」がOSのシャットダウン動作を開始した時に、OSを「シャットダウン」モードで終了します。</td></tr>
<tr><td>Windowsを「休止状態」で終了する</td><td>「UPSサービス」がOSのシャットダウン動作を開始した時に、OSを「休止状態」モードで終了します。</td></tr>
</table>

（5）UPSを自動停止させる

この機能は、[通信方式の選択]で「シリアル通信方式」および「接点信号方式（電源出力停止遅延機能あり）」を選択した場合のみ有効になります。

<table>
<tr><th>デフォルト設定</th><th colspan="3">説明</th></tr>
<tr><td rowspan="5">☑</td><td colspan="3">シャットダウンを開始してから設定された時間経過後に無停電電源装置（UPS）を自動停止できます。</td></tr>
<tr><th>パラメータ</th><th colspan="2">パラメータの説明</th></tr>
<tr><td rowspan="2">☑</td><td>シリアル通信方式</td><td>OSのシャットダウン動作が開始してから「OSシャットダウン開始からUPSを自動停止するまでの時間」で設定した時間経過後に無停電電源装置（UPS）は自動停止します。設定時間については、「<u>(6)OSシャットダウン開始からUPSを自動停止するまでの時間</u>」(P.15)をご覧ください。</td></tr>
<tr><td>接点信号方式（電源出力停止遅延機能あり）</td><td>OSのシャットダウン動作が開始してから無停電電源装置（UPS）の本体で設定した「電源出力停止遅延時間」経過後に無停電電源装置（UPS）は、自動停止します。</td></tr>
<tr><td>☐</td><td colspan="2">OSが終了しても無停電電源装置（UPS）は、自動停止しません。無停電電源装置（UPS）は、内部のバッテリの放電能力がなくなるまで、バックアップ運転を継続しますので、無停電電源装置（UPS）の電源スイッチを切って無停電電源装置（UPS）の運転を停止してください。</td></tr>
<tr><th colspan="4">設定上の注意</th></tr>
<tr><td colspan="4">● 使用されている無停電電源装置（UPS）が「接点信号方式（電源出力停止遅延機能なし）」にもかかわらず、間違って「接点信号方式（電源出力停止遅延機能あり）」を選択され、「UPSを自動停止させる」が有効になっていた場合、シャットダウン開始と同時に無停電電源装置（UPS）の出力が停止し、パソコンの電源が切れます。このような現象が発生した場合は、OSを再起動した後に「UPSサービスドライバ設定」を起動し、「通信方式の選択」を「接点信号方式（電源出力停止遅延機能あり）」から「接点信号方式（電源出力停止遅延機能なし）」に設定を変更してください。</td></tr>
</table>

（6）OSシャットダウン開始からUPSを自動停止するまでの時間

<u>この機能は、「シリアル通信方式」を選択した場合のみ有効になります。</u>

<table>
<tr><th>デフォルト設定</th><th colspan="2">説明</th></tr>
<tr><td rowspan="17">600（秒）</td><td colspan="2">OSのシャットダウン動作を開始してから何分後に無停電電源装置（UPS）を自動停止できるか設定できます。</td></tr>
<tr><th>パラメータ</th><th>パラメータの説明</th></tr>
<tr><td>30</td><td>30秒後に無停電電源装置（UPS）を自動停止します。</td></tr>
<tr><td>36</td><td>36秒後に無停電電源装置（UPS）を自動停止します。</td></tr>
<tr><td>42</td><td>42秒後に無停電電源装置（UPS）を自動停止します。</td></tr>
<tr><td>48</td><td>48秒後に無停電電源装置（UPS）を自動停止します。</td></tr>
<tr><td>54</td><td>54秒後に無停電電源装置（UPS）を自動停止します。</td></tr>
<tr><td>60</td><td>60秒後に無停電電源装置（UPS）を自動停止します。</td></tr>
<tr><td>120</td><td>120秒後に無停電電源装置（UPS）を自動停止します。</td></tr>
<tr><td>180</td><td>180秒後に無停電電源装置（UPS）を自動停止します。</td></tr>
<tr><td>240</td><td>240秒後に無停電電源装置（UPS）を自動停止します。</td></tr>
<tr><td>300</td><td>300秒後に無停電電源装置（UPS）を自動停止します。</td></tr>
<tr><td>360</td><td>360秒後に無停電電源装置（UPS）を自動停止します。</td></tr>
<tr><td>420</td><td>420秒後に無停電電源装置（UPS）を自動停止します。</td></tr>
<tr><td>480</td><td>480秒後に無停電電源装置（UPS）を自動停止します。</td></tr>
<tr><td>540</td><td>540秒後に無停電電源装置（UPS）を自動停止します。</td></tr>
<tr><td>600</td><td>600秒後に無停電電源装置（UPS）を自動停止します。</td></tr>
</table>

４．４　各警告メッセージを設定する

（１）すべての警告メッセージを通知する

<table>
<tr><th>デフォルト設定</th><th colspan="2">説明</th></tr>
<tr><td rowspan="6">☑</td><td colspan="2">シャットダウン動作時にパソコンにメッセージをポップアップして表示します。</td></tr>
<tr><th colspan="2">《注意》</th></tr>
<tr><td colspan="2">新しい警告メッセージは古い警告メッセージの裏画面に表示されます。新しい警告メッセージを確認したい場合は、メッセージ画面の[OK]ボタンをクリックしてください。</td></tr>
<tr><th>パラメータ</th><th>パラメータの説明</th></tr>
<tr><td>☑</td><td>設定された時間経過後に警告メッセージをポップアップして表示します。
設定時間については、「（２）初回警告／警告間隔」をご覧ください。</td></tr>
<tr><td>☐</td><td>警告メッセージは、表示されません。</td></tr>
</table>

（２）初回警告／警告間隔

【初回警告】

<table>
<tr><th>デフォルト設定</th><th colspan="2">説明</th></tr>
<tr><td rowspan="3">5（秒）</td><td colspan="2">「UPSサービス」が停電などの電源異常を検出してから設定された時間経過後に警告メッセージをポップアップして表示します。</td></tr>
<tr><th>パラメータ</th><th>パラメータの説明</th></tr>
<tr><td>0～120秒</td><td>１秒単位で初回警告の時間を設定できます。</td></tr>
<tr><th colspan="3">【留意事項】</th></tr>
<tr><td colspan="3">● 「設定時間経過後シャットダウンを開始する」の設定パラメータを「0分」または「１分」に設定した場合、「初回警告」の設定パラメータは、「２秒」に設定されます。</td></tr>
</table>

【警告間隔】

<table>
<tr><th>デフォルト設定</th><th colspan="2">説明</th></tr>
<tr><td rowspan="3">120（秒）</td><td colspan="2">初回警告メッセージを表示した後、設定された時間経過後に警告メッセージをポップアップして表示します。</td></tr>
<tr><th>パラメータ</th><th>パラメータの説明</th></tr>
<tr><td>5～300秒</td><td>１秒単位で警告間隔の時間を設定できます。</td></tr>
</table>

４．５　「終了アプリケーション情報」画面の表示を設定する

《注意》
●　自動ファイルセーブ機能を使用する場合は、必ず、本書の「（3）外部コマンドを実行する」(P.11)にしたがって設定してください。設定を行わないと自動ファイルセーブ機能は動作しません。

<table>
<tr><th>デフォルト設定</th><th colspan="2">説明</th></tr>
<tr><td rowspan="6">☑</td><td colspan="2">● OS再起動時に「終了アプリケーション情報」画面を自動的に表示するかどうか選択できます。
● [終了アプリケーション情報]画面の[シャットダウン時に終了したアプリケーション情報]欄からアプリケーションソフト名を選択すると、[自動保存されたファイル情報]欄にファイル名を表示します。自動ファイルセーブ機能がフォルダ（Windows¥TempまたはWinNT¥Temp）に保存されたファイルをダブルクリックすると自動保存したファイルを開くことができます。</td></tr>
<tr><th colspan="2">《注意》</th></tr>
<tr><td colspan="2">● 自動ファイルセーブ機能が動作しなかった場合は、OS再起動時に「終了アプリケーション情報」画面は表示されません。
● [終了アプリケーション情報]画面の[自動保存されたファイル情報]欄に表示された上書き保存ファイルをダブルクリックしてもファイルを開くことはできません。上書き保存ファイルを開く場合には、エクスプローラを起動して上書き保存されたファイルをダブルクリックして開いてください。またはアプリケーションソフトウェアを起動して上書き保存されたファイルを指定してファイルを開いてください。
● OS再起動時に自動保存したファイル名、自動終了したアプリケーション名が「終了アプリケーション情報」画面に表示されなかった場合は、本書の「8．5「終了アプリケーション情報」画面にファイル名が表示されない場合」(P.32)をご覧ください。</td></tr>
<tr><th>パラメータ</th><th>パラメータの説明</th></tr>
<tr><td>☑</td><td>OS再起動時に「終了アプリケーション情報」画面を自動的に表示する。</td></tr>
<tr><td>☐</td><td>OS再起動時に「終了アプリケーション情報」画面を表示しない。</td></tr>
</table>

５．シャットダウン動作順序

この章では、無停電電源装置（UPS）が停電などの電源異常を検出した時のシャットダウン動作について説明いたします。以下の図および表をご覧ください。

５．１　シリアル通信方式をご使用される場合

項目	説明
電源異常発生	停電などの電源異常が発生しました。無停電電源装置（UPS）から接続している機器へ電力供給を開始します。
設定時間経過後シャットダウンを開始する （デフォルト：2分）	停電などの電源異常を検出していてもすぐにOSの終了を開始しません。設定されている時間を経過しても停電などの電源異常が回復していない、またはバッテリ電圧低下が発生した場合に、OSの終了を実行します。待機時間中に電源異常が回復した場合「シャットダウン開始」は、実行されません。
シャットダウン開始	シャットダウン開始までの設定時間を経過しても停電などの電源異常が回復しなかったので、OSの終了を開始します。
OSシャットダウン開始からUPSを自動停止するまでの時間 （デフォルト：600秒）	「シャットダウン開始」してから無停電電源装置（UPS）を停止するまでの時間です。この設定は、「UPSサービスドライバ設定」で設定することができます。設定方法については、本書の15ページをご参照ください。
OSシャットダウン完了	OSを終了しました。パソコンの電源を切ります。
無停電電源装置（UPS）停止	「OSシャットダウン開始からUPSを自動停止するまでの時間」で設定した時間になったので、無停電電源装置（UPS）を停止します。

［注意］　シャットダウン開始後、停電などの電源異常が回復しても、必ず無停電電源装置（UPS）は停止します。OSシャットダウン完了後、停電などの電源異常が回復しても、すぐにパソコンの電源を入れないでください。必ず無停電電源装置（UPS）が自動停止し、再起動した後にパソコンの電源を入れてください。

「シャットダウン動作順序」の内容を理解した後に、「6. シャットダウン動作確認」（P.21）に進んでください。

５．２　接点信号方式（電源出力停止遅延機能あり）をご使用される場合

項目	説明
電源異常発生	停電などの電源異常が発生しました。無停電電源装置(UPS)から接続している機器へ電力供給を開始します。
設定時間経過後シャットダウンを開始する （デフォルト:2分）	停電などの電源異常を検出していてもすぐにOSの終了を開始しません。設定されている時間を経過しても停電などの電源異常が回復していない、またはバッテリ電圧低下が発生した場合に、OSの終了を実行します。待機時間中に電源異常が回復した場合「シャットダウン開始」は、実行されません。
シャットダウン開始	シャットダウン開始までの設定時間を経過しても、停電などの電源異常が回復しなかったので、OSの終了を開始します。
バックアップ電源停止信号	無停電電源装置(UPS)を停止させるための信号を無停電電源装置(UPS)に送信します。 （備考）　外部コマンドを実行する場合は、外部コマンド実行してから約30秒後に、「バックアップ電源停止信号」を無停電電源装置(UPS)に送信します。
電源出力停止遅延時間	「バックアップ電源停止信号」を受信してから無停電電源装置(UPS)を停止するまでの時間です。この設定方法については、無停電電源装置(UPS)の取扱説明書をご参照ください。
OSシャットダウン完了	OSを終了しました。パソコンの電源を切ります。
無停電電源装置(UPS)停止	「電源出力停止遅延時間」を経過したので無停電電源装置(UPS)を停止します。

［注意］　「シャットダウン開始」後、停電などの電源異常が回復しても、必ず無停電電源装置(UPS)は停止します。OSシャットダウン完了後、停電などの電源異常が回復しても、すぐにパソコンの電源を入れないでください。必ず無停電電源装置(UPS)が自動停止し、再起動した後にパソコンの電源を入れてください。

「シャットダウン動作順序」の内容を理解した後に、「6. シャットダウン動作確認」(P.21)に進んでください。

５．３　接点信号方式（電源出力停止遅延機能なし）をご使用される場合

項目	説明
電源異常発生	停電などの電源異常が発生しました。無停電電源装置(UPS)から接続している機器へ電力供給を開始します。
設定時間経過後シャットダウンを開始する (デフォルト:2分)	停電などの電源異常を検出していてもすぐにOSの終了を開始しません。設定されている時間を経過しても停電などの電源異常が回復していない、またはバッテリ電圧低下が発生した場合に、OSの終了を実行します。待機時間中に電源異常が回復した場合「シャットダウン開始」は、実行されません。
シャットダウン開始	シャットダウン開始までの設定時間を経過しても、停電などの電源異常が回復しなかったので、OSの終了を開始します。
OSシャットダウン完了	OSを終了しました。パソコンの電源を切ります。
無停電電源装置(UPS)停止	無停電電源装置(UPS)は、以下の方法で停止します。 ①無停電電源装置(UPS)の「電源スイッチ」を切った時 ②無停電電源装置(UPS)の内蔵バッテリがなくなった時 ③バックアップ状態が長時間(約90分以上)継続した時 ④パソコンの電源が自動的に切れた時(パソコンの電源が自動的に切れても無停電電源装置(UPS)が自動的に切れない機種もあります。)

［注意］　停電などの電源異常回復後、無停電電源装置(UPS)は、バッテリ充電を行い、次回の停電などの電源異常に備えます。

「シャットダウン動作順序」の内容を理解した後に、「6. シャットダウン動作確認」(P.21)に進んでください。

６．シャットダウン動作確認

この章では、シャットダウン動作確認の手順について説明しています。
次の操作手順に従ってシャットダウン動作確認を行ってください。

シャットダウン動作確認を実行する前の注意
● 無停電電源装置（UPS）のバッテリ充電が完了した後、シャットダウン動作を実施してください。 ● バッテリ充電に必要な時間は、各無停電電源装置（UPS）の取扱説明書をご参照ください。 ● バッテリ充電完了する前にシャットダウン動作を行った場合、無停電電源装置（UPS）が停止してしまう場合があります。 ● 入力電源が供給されるとパソコンの電源スイッチを押さなくてもパソコンが起動できるように設定したい場合には、パソコンのBIOS設定で、「入力電源回復後のシステム起動」の設定項目（例 Restore On AC/Power Loss）を選択し、「入力電源回復後システムを起動する」（例 Power On）に設定変更してください。なお、ご使用されるパソコンによって、BIOS設定の方法や表示される項目が異なります。ご使用されるパソコンの取扱説明書をご覧いただくか、またはパソコンメーカのサポートセンタへお問い合わせください。

［操作手順］

① ［UPSサービスドライバ設定］画面を開いてください。

［UPSサービスドライバ設定］画面の起動手順
● ［スタート］－［プログラム（P）］－［UPS Service Tool］－［UPSサービスドライバ設定］を選択してから、マウスの左ボタンをクリックしてください。［UPSサービスドライバ設定］画面が表示されます。

② 次の設定を行ってください。

◆ **［シリアル通信方式／接点信号方式（電源出力停止遅延機能あり）／接点信号方式（電源出力停止遅延機能なし）］共通の設定操作**

【シャットダウンパラメータ設定】

<1> ［設定時間経過後シャットダウンを開始する］を「有効」にし、設定時間を2分にしてください。

<2> ［Windows終了動作の選択］を［Windowsを「休止状態」で終了する］を選択してください。（こちらの設定を推奨します。）

《注意》
● ［Windowsを「休止状態」で終了する］を選択した場合、［外部コマンドを実行する］に関する項目は、すべて選択できません。

［Windows終了動作の選択］で［Windowsを「休止状態」で終了する］を選択できない場合、［Windowsを終了する］を選択してください。

<3> [外部コマンドを実行する]は、[Windows終了動作の選択]で[Windowsを終了する]を選択した時のみ「有効」となります。ファイルセーブ機能を使用したい場合は、【初期値の外部コマンド】をご使用ください。
【初期値の外部コマンド】
C:¥ProgramFiles¥UPSServiceTool¥CloseApp.bat

【警告】

<1> [すべての警告メッセージを通知する]を[有効](チェックボックスにチェックマークをつける)にしてください。
<2> [初回警告時間(秒後)]を「5秒」に設定してください。
<3> [警告間隔(秒毎)]を「30秒」に設定してください。

【終了アプリケーション情報の表示】

<1> [Windows再起動時に終了アプリケーション情報画面を表示する]を[有効](チェックボックスにチェックマークをつける)にしてください。

◆ [シリアル通信方式/接点信号方式(電源出力停止遅延機能あり)]共通の設定操作

【シャットダウンパラメータ設定】

<1> 「UPSを自動停止させる」を[有効](チェックボックスにチェックマークをつける)にしてください。

《注意》
● 接点信号方式(電源出力停止遅延機能なし)を選択されている場合は、「UPSを自動停止させる」を選択できません。

◆ [シリアル通信方式のみの設定操作

【シャットダウンパラメータ設定】

<1> [OSシャットダウン開始からUPSを自動停止させるまでの時間(秒)]を600秒(初期値)に設定してください。

《注意》
● 接点信号方式を選択されている場合は、この設定はできません。

③ 設定完了後、[UPSサービスドライバ設定]画面の[OK]ボタンをクリックしてください。
④ 「電源管理オプションのプロパティ」画面が表示されますので、[UPS]タブを選択し、無停電電源装置(UPS)と通信できていることを確認してください。
⑤ 確認完了後、無停電電源装置(UPS)のAC入力プラグをAC100Vのコンセントから抜いてください。停電発生し、設定した[初回警告時間(秒後)]経過後に警告メッセージを表示し、その後は設定した「警告間隔(秒毎)」間隔で警告メッセージを表示します。
⑥ 「設定時間経過後シャットダウンを開始する(分)」が経過後、UPSサービスは自動的にシャットダウンを開始します。

⑦　ＯＳシャットダウン完了後、無停電電源装置（UPS）とパソコンの電源が自動的に切れます。（備考：特定のパソコンでは、パソコンの電源が切れると同時に無停電電源装置（UPS）の電源も切れる場合があります。）
無停電電源装置（UPS）が停止する時間や停止方法は、各無停電電源装置（UPS）の方式によって異なりますのでご注意ください。

◆ **<u>シリアル通信方式をご使用されている場合の動作</u>**

シャットダウン開始後、③項で設定した時間（初期値：600秒）後に自動停止します。

◆ **<u>接点信号方式（電源出力停止遅延機能あり）をご使用されている場合の動作</u>**

シャットダウン開始後、無停電電源装置（UPS）本体の「設定スイッチ」で設定している「電源出力停止遅延時間」後に自動停止します。

◆ **<u>接点信号方式（電源出力停止遅延機能なし）ご使用されている場合の動作</u>**

無停電電源装置（UPS）は、以下の方法で停止します。
<1> 無停電電源装置（UPS）の「電源スイッチ」を切った時
<2> 無停電電源装置（UPS）の内蔵バッテリがなくなった時
<3> バックアップ状態が長時間（約90分以上）継続した時
<4> パソコンの電源が自動的に切れた時（パソコンの電源が自動的に切れても無停電電源装置（UPS）が自動的に切れない機種もあります。）

シャットダウン動作時の注意
以下のような条件を満たす場合、「シャットダウン開始」後、無停電電源装置（UPS）の入力電源が回復しても、無停電電源装置（UPS）が自動停止するまで、パソコンの電源を入れないようにしてください。誤ってパソコンの電源を入れてしまうと無停電電源装置（UPS）が自動停止すると同時にパソコンの電源が切れてしまいます。よって、無停電電源装置（UPS）が自動停止し、再起動した後にパソコンの電源を入れるようにしてください。 【条件】　①［シリアル通信方式］または［接点信号方式（電源出力停止遅延機能あり）］を使用している。 ②［UPSサービスドライバ設定］画面の［UPSを自動停止させる］を有効（レ：チェックマークをつける）にしている

⑧　無停電電源装置（UPS）が停止した後に、無停電電源装置（UPS）のAC入力プラグをAC100Vコンセントに接続してください。⑦項で無停電電源装置（UPS）の「電源スイッチ」を切った場合は、ここで「電源スイッチ」を入れてください。

⑨　無停電電源装置（UPS）が運転を再開し、パソコンへの電力供給を開始します。電力供給が開始されると、パソコンは自動起動します。なお、パソコンの機種によっては、自動起動しないものもあります。この場合、パソコンの「電源スイッチ」を入れて、パソコンを起動してください。

⑩　パソコンが再起動した後に、［UPSサービスドライバ設定］画面で設定変更した項目については、再度お客様のシステムに適したパラメータに設定を変更してください。以上でシャットダウン動作確認は終了です。

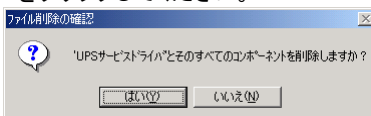
７．アンインストール方法

（本章では、本ソフトウェアを削除する方法について説明しています。削除したい場合のみ実行してください。）

1．　[スタート]ボタンをクリックし、[設定]-[コントロールパネル]を選択してください。

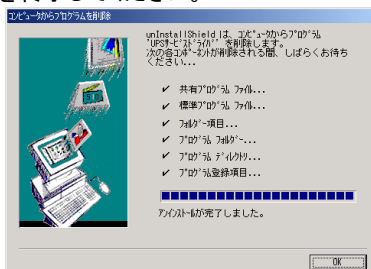
2．　ご使用されているOSごとに次の操作を行い、[アプリケーションの追加と削除]または[プログラムの追加と削除]の画面を開いてください。

- **[Windows 2000をご使用されている場合の操作]**
  コントロールパネル内の[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックしてください。
- **[Windows Server 2003/XPをご使用されている場合の操作]**
  コントロールパネル内の[プログラムの追加と削除]アイコンをダブルクリックしてください。

画面に表示されたアプリケーション名から「UPSサービスドライバ」を選択し、[変更／削除]ボタンをクリックしてください。

3．　[ファイル削除の確認]ダイアログが表示されたら[はい]ボタンをクリックしてください。

4．　アンインストールが終了するまでしばらくお待ちください。

アンインストール中の注意事項
● アンインストール中に[共用ファイルを削除しますか？]の画面が表示されます。[いいえ]または[すべていいえ]を選択してアンインストールを進めてください。共用ファイルは、他のアプリケーションソフトウェアが使用する可能性がありますので削除しないでください。

5．　[コンピュータからプログラムを削除]画面が表示されたら[OK]ボタンをクリックしてアンインストールを終了してください。

[コンピュータからプログラムを削除]画面

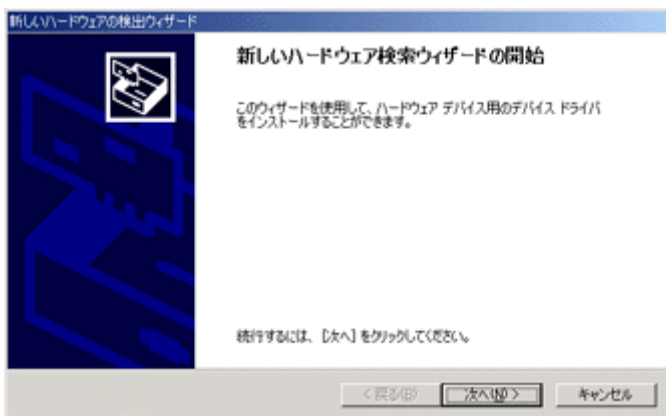
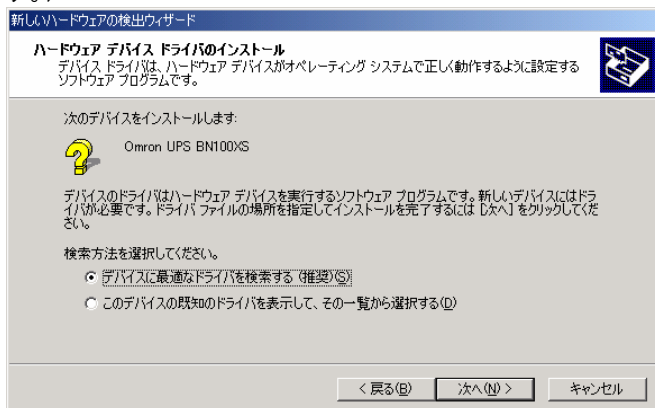
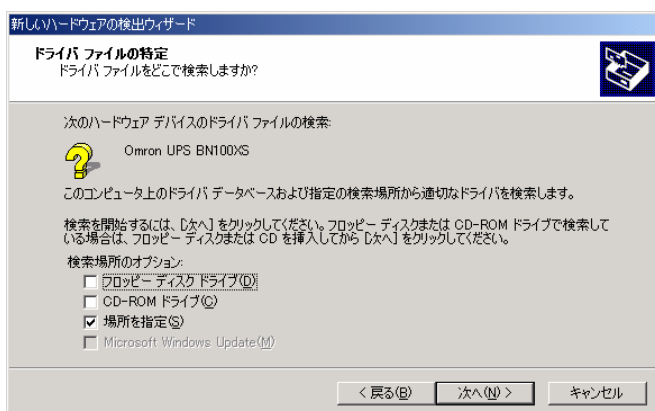
８．こんなときは

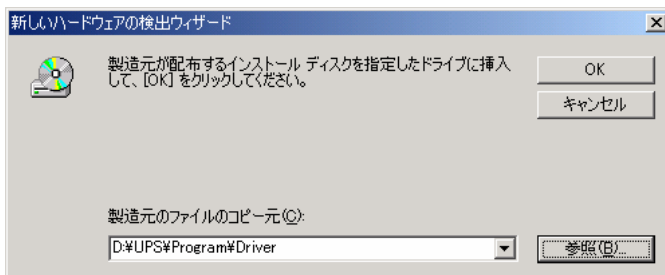
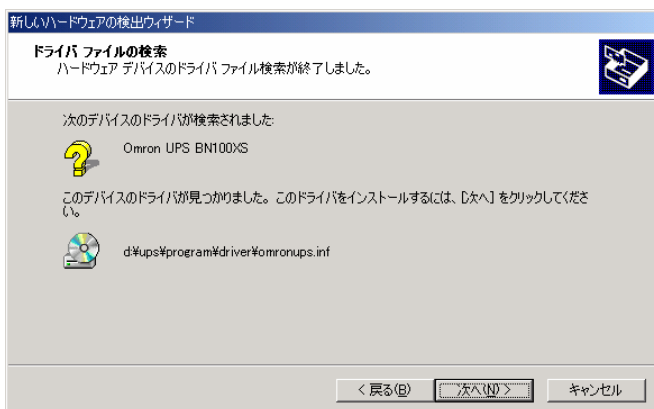
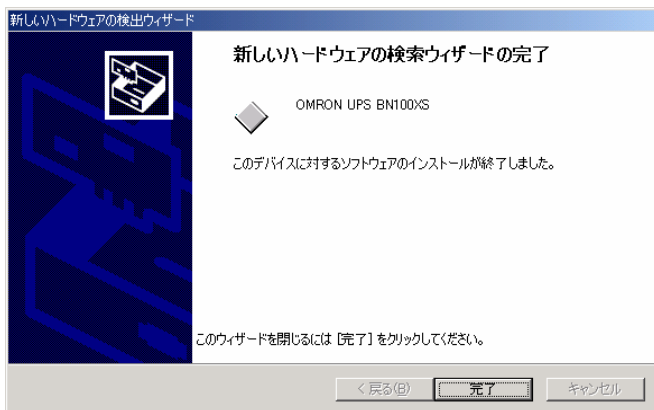
８．１　ドライバファイルのインストールを要求される場合

- 「シリアル通信方式」(P.1参照)をご使用される場合で、OSがドライバファイルのインストールを要求する場合は、以下の手順に従って、ドライバファイルのインストールを行ってください。
- Windows2000を使用している方は、[Windows 2000 ドライバファイルインストール手順](P.25)へ進んでください。
- Windows Server 2003/XPを使用している場合、[Windows Server 2003/XP ドライバファイルインストール手順](P.29)へ進んでください。

[Windows 2000　ドライバファイルインストール手順]

① アドミニストレータ(コンピュータの管理者)権限があるユーザ名を使用してWindowsへログオンしてください。

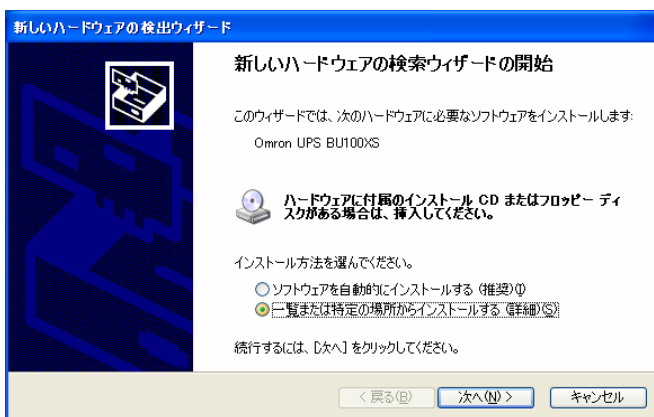
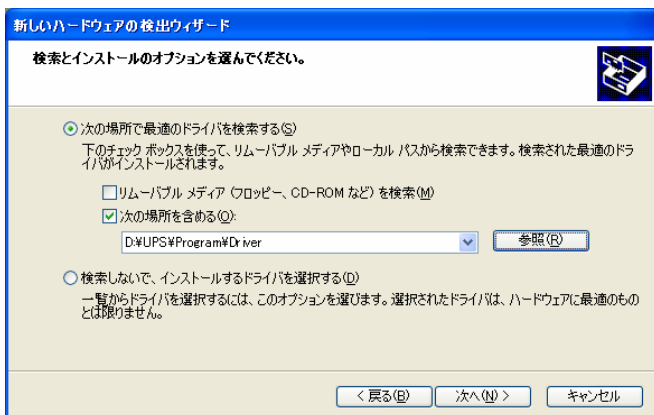
② OSを起動した後に、自動的に無停電電源装置(UPS)を認識し、次のような画面が表示されます。[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。

③　「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）（S）」を選択し、[次へ（N）]ボタンをクリックしてください。
（以下の画面は、BN100XSを認識した場合の例です。Windowsが無停電電源装置（UPS）を認識すると自動的に無停電電源装置（UPS）の形式が表示されます。）

④　[場所を指定（S）]にチェックマークを付けて、[次へ（N）]ボタンをクリックしてください。（以下の画面は、BN100XSを認識した場合の例です。Windowsが無停電電源装置（UPS）を認識すると自動的に無停電電源装置（UPS）の形式が表示されます。）

⑤　CD-ROM内のUPS¥Program¥Driverフォルダを指定し、[OK]ボタンをクリックしてください。

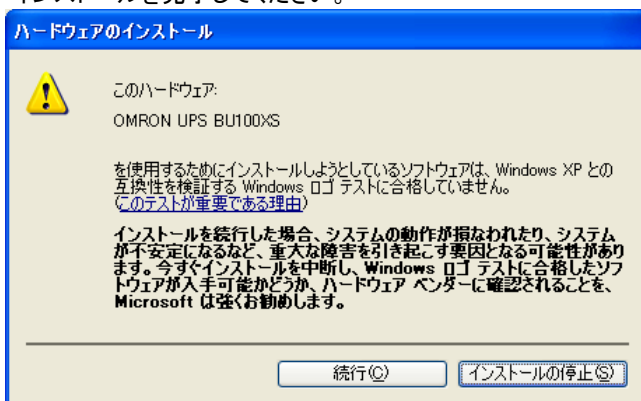
（例　CD-ROMドライブがDドライブの場合、D:¥UPS¥Program¥Driverと入力します。）

⑥　[次へ(N)]ボタンをクリックしてください。
（以下の画面は、BN100XSを認識した場合の例です。Windowsが無停電電源装置(UPS)を認識すると自動的に無停電電源装置(UPS)の形式が表示されます。）

⑦　[完了]ボタンをクリックしてください。
（以下の画面は、ＢＮ100ＸＳを認識した場合の例です。Windowsが無停電電源装置（UPS）を認識すると自動的に無停電電源装置（UPS）の形式が表示されます。）

⑧　「3.インストール方法」（P.4）へ進んでください。

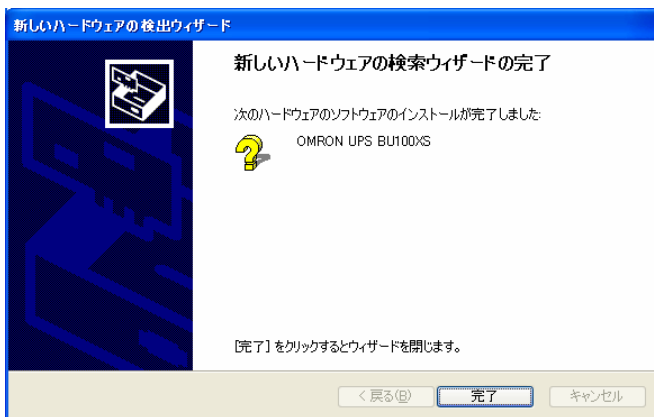
［Windows Server 2003/XP ドライバファイルインストール手順］

① 本書では、Windows XPを例に説明します。

② Administrator（コンピュータの管理者）権限があるユーザ名を使用してWindowsへログオンしてください。

③ OSが起動すると、自動的に無停電電源装置（UPS）を認識し、次のような画面が表示されます。「一覧または特定の場所からインストールする（詳細）（S）」を選択してください。
（以下の画面は、BU100XSを認識した場合の例です。Windowsが無停電電源装置（UPS）を認識すると自動的に無停電電源装置（UPS）の形式が表示されます。）

④　「次へ（N）」ボタンをクリックすると、次のような画面が表示されます。
「次の場所で最適のドライバを検索する（S）」と「次の場所を含める（O）」を選択し、CD-ROM内のUPS¥Program¥Driverフォルダを指定し、［次へ（N）］ボタンをクリックしてください。OSが自動的にドライバファイルのインストールを開始します。（例　CD-ROMドライブがDドライブの場合、D:¥UPS¥Progarm¥Driverと入力してください。）

［警告メッセージが表示された場合］

- 次のような「ハードウェアインストール」の警告メッセージが表示された場合は、［続行（C）］ボタンをクリックして、ドライバファイルのインストールを完了してください。

⑤　［完了］ボタンをクリックしてください。

（以下の画面は、BU100XSを認識した場合の例です。Windowsが無停電電源装置（UPS）を認識すると自動的に無停電電源装置（UPS）の形式が表示されます。）

⑥　「3.インストール方法」（P.4）へ進んでください。

８．２ ファイルセーブ機能のコマンドと別の外部コマンドを同時に実行したい場合

①　メモ帳を起動してください

②　「UPS Service Tool」フォルダの「CloseApp.bat」ファイルをオープンしてください。

③　「CloseApp.exe」と表示されますので、別の外部コマンドを追記してください。

（記述例）

C:¥ProgramFiles¥UPS service Tool¥CloseApp.exe

C:¥Windows¥NotePad.exe

④　記述を追加した後、上書き保存してください。

⑤　次回のシャットダウン動作からファイルセーブと一緒に別のコマンドを実行することができます。

（注意）コマンドを実行できるのは、30秒間だけです。

８．３　無停電電源装置（UPS）とUPSサービスが通信できない場合

① パソコンと無停電電源装置（UPS）が商品に同梱されている付属ケーブルで正しく接続されているか、確認してください。
② UPSサービスで設定したCOMポートと無停電電源装置（UPS）を接続しているパソコンのシリアルポートが一致しているか確認してください。
③ 他の通信アプリケーションが同じCOMポートを使用していないか確認してください。

８．４　「休止状態」でシャットダウンできない場合

- 本ソフトウェアをインストールする前に、次の【手順】に従ってパソコンの［休止状態］機能が正常に動作するか必ずご確認してください。
- ご使用されているパソコンが［休止状態］機能をサポートしているどうかなどについては、パソコンの取扱説明書をご覧いただくか、パソコンメーカのサポートセンタまでお問い合わせください。

【手順】

① ［コントロールパネル］－［電源オプション］アイコンをダブルクリックし、［電源オプションのプロパティ画面］に［休止状態］タブが表示されているか確認してください。［休止状態］タブが表示されていない場合は、ご使用されているパソコンは、［休止状態］機能はサポートされていません。
② ［休止状態］タブが表示されている場合は、［休止状態］タブをクリックし［休止状態］が有効になっていることを必ず確認してください。
③ ［スタート］—［Windowsの終了］—［休止状態］を選択し、OSを［休止状態］で終了してください。
④ ［休止状態］で終了した場合、パソコンの電源スイッチを入れて休止状態から復帰することを確認してください。OSが正常に起動できれば［休止状態］機能は、正常に動作しています。［休止状態］に入れなかった場合や［休止状態］から正常に復帰できなかった場合は［休止状態］はご使用できません。

８．５　「終了アプリケーション情報」画面にファイル名が表示されない場合

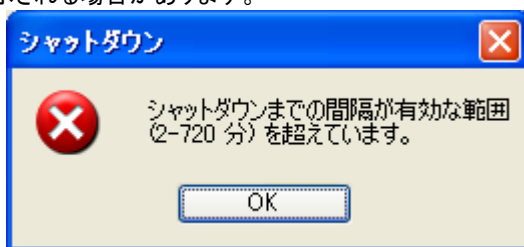
OS再起動時に表示される「終了アプリケーション情報」画面にアプリケーション名やファイル名が表示されない場合、自動ファイルセーブ機能がファイルを保存するフォルダ（Windows¥TempまたはWinNT¥Temp）をご確認ください。新規ファイル（ファイル名が付いていないファイル）はフォルダ（Windows¥TempまたはWinNT¥Temp）に保存されます。また、既存ファイル（ファイル名が付いているファイル）は、現在ファイルを保存しているフォルダに上書き保存されています。

《注意》
● 自動ファイルセーブ機能を使用する場合は、必ず、本書の「（3）外部コマンドを実行する」(P.11)にしたがって設定してください。設定を行わないと自動ファイルセーブ機能は動作しません。

８．６ アンインストール後にUPSサービスのエラーメッセージが表示される場合

アンインストール完了後にOSを再起動するとUPSサービスに関するエラーメッセージが表示された時は、[電源オプションのプロパティ]画面の[UPS]タブをクリックし、製造元とモデル名が表示されていないか確認してください。表示されている場合は、[選択(S)]ボタンをクリックし[UPSの選択]画面の[製造元の選択(S)]を[(なし)]に設定変更し、[完了]ボタンをクリックしてください。[電源オプションのプロパティ]画面に戻りましたら、[適用(A)]ボタンをクリックして画面を閉じてください。

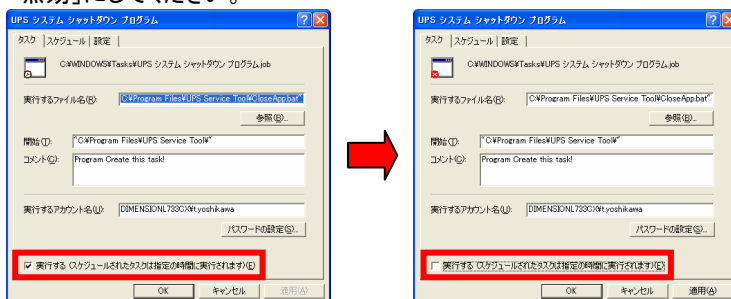
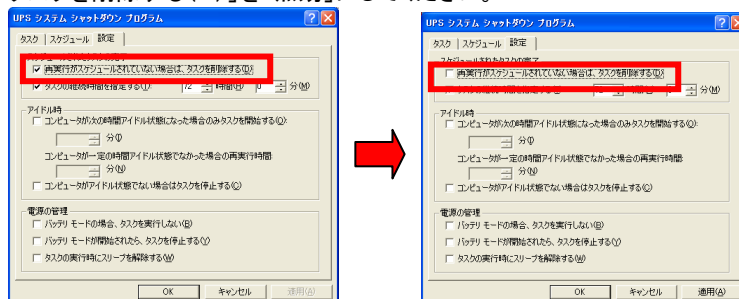
８．７ 「電源オプション」の「UPS」画面から各パラメータを変更した場合のエラーメッセージについて

「電源オプション」の「UPS」画面から各パラメータを変更した場合、次のようなエラーメッセージが表示される場合があります。

【エラーメッセージ内容】

【発生理由】
「UPSの構成」画面の「バッテリ駆動開始から警告を発するまでの時間(分)」の設定パラメータが「0分」または「1分」に設定されているため。

【対処方法】
「電源オプション」の「UPS」画面から、各パラメータを変更しないでください。変更する場合は、UPSサービスドライバソフトウェアの「UPSサービスドライバ設定」画面より設定変更を行ってください。

８．８ 外部コマンドが定期的に実行される場合について

- 「UPSシステム　シャットダウン　プログラム」で「実行する（スケジュールされたタスクは指定された時間に実行されます（E）」を有効にしている場合、「スケジュール」タブに設定されている日時を経過した後、「UPSシステム　シャットダウン　プログラム」が自動的に外部コマンドを実行します。
- 「スケジュール」タブに設定されている日時を経過した後、「UPSシステム　シャットダウン　プログラム」が自動的に外部コマンドを実行しないようにしたい場合、「実行する（スケジュールされたタスクは指定された時間に実行されます（E）」を「無効」にしてください。

- 次に、「設定」タブをクリックして、「再実行がスケジュールされていない場合は、タスクを削除する（D）」を「無効」にしてください。

- 設定完了後、「適用」ボタンをクリックしてください。必要に応じてパスワードが要求される場合があります。要求された場合は、パスワードを必ず入力してください。

８．９ WindowsやUPSサービスのトラブルについて

① WindowsやUPSサービスのトラブルについては、「マイクロソフト　サポート技術情報」をご参照ください。
【ホームページアドレス】http://www.microsoft.com/japan/support

② Windowsのオンラインヘルプ、取扱説明書、その他の関連書籍をご参照ください。

- 最新の製品情報は、弊社ホームページ（http://www.omron.co.jp/ped-j）をご覧ください。
- 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止いたします。
- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

オムロン株式会社

Rev.K1L-D-04019I